

科学ジャーナリストは 何ができるか

2005年5月24日

毎日新聞科学環境部長

日本科学技術ジャーナリスト会議理事

瀬川至朗

科学ジャーナリストと科学コミュニケーター

■ 科学ジャーナリスト

(A)科学が関係する時事問題の報道・論評

(B)科学をわかりやすく楽しく魅力的に伝える

(A)では科学技術行政とは是々非々で向き合う
取材相手とは一定の距離を置く

(B)の役割は科学コミュニケーターと重なる



科学ジャーナリストはなぜ わかりやすく楽しく魅力的に伝える必要があるか

- 一般紙の読者は主婦が多い。文系中心。「中学生にわかる言葉」で書く
- より広い層に科学記事に関心をもってもらうため、楽しく魅力的なことも大切
- 新聞社の編集局は文系優位の社会の縮図。彼らが読んで納得できる書き方

* 社内から「科学記事(と経済記事)は難解」の声。とくに素粒子の先端研究は工夫しても「わかりにくい」といわれる



科学部とは

各社の陣容(東京本社) = 数人 ~ 30人とさまざま

取材対象 = 先端科学・技術、宇宙、原子力、地震・火山、生命科学、医療、環境、食の安全・・・(大きく分けると、科学・環境・医療)

関係省庁 = 文部科学省、環境省、厚生労働省、気象庁、経済産業省、内閣府など

部の名称 = 科学部(共同、東京、読売) 科学環境部(毎日)
科学技術部(日経) 科学医療部(朝日)

科学記者の出身学部 毎日新聞は文系、理系ほぼ半々



日本の新聞の科学ニュースは少ないか

- 日々のニュースで大きく扱われることが多いもの

- (A) 重要な発見、開発

- (B) BSE、生殖医療、がん、臓器移植法、地球温暖化、リサイクル、大地震、大噴火、原子力事故など

- * こうした事象の科学的な意味や全体像を解説し、読者が考える際の座標軸を提供する

- = 社内のシンクタンク、コーディネーター

主な新聞の科学関係紙面(東京本社分、2005年5月)

【朝日新聞】

月曜朝刊 医療面

火、金朝刊 科学面

日曜朝刊 Be on Sunday

【産経新聞】

月曜朝刊 科学面

月曜朝刊 「生命ビッグバン」

水曜朝刊

【東京新聞】

火曜朝刊 科学面

木曜夕刊 パソコン面

金曜朝刊 健康面

【日経新聞】

日、月朝刊 科学面

日曜朝刊、火曜夕刊 医療・健康面

金曜朝刊 「テクノロジー」

【毎日新聞】

月曜朝刊 医療・健康面

月曜朝刊 環境面

水曜朝刊 科学面

水曜朝刊 「発信箱」(元村)

中学生新聞 木曜朝刊 科学面

【読売新聞】

日曜朝刊 健康面

月曜朝刊 医療面

水曜朝刊 科学面

土曜夕刊 「なっとく科学」



アメリカの新聞

ニューヨークタイムズ

毎週火曜日 サイエンスタイムズ 8ページ

しかし、他紙では定期的な科学面は見当たらない
(ワシントンポストなども)

フィーチャー面、日々のニュース記事とも、日本の新聞の方が本数は多い ただし、1本の記事が短い
背景説明まで書けない = 記者にとっての悩み

(3) 読まれる科学記事の例

- ・ ニュース (研究成果の重要性とは相関しないことが多い)
- ・ 「ゆで卵 回転で跳び上がる「起き上がり」に新説」(5月20日)
- ・ タコの二足歩行 ・ 恐竜もの ・ 天文
- ・ 医療分野の新開発 (例 全身を一度でがん検査 MRIで鮮明画像)

コラム なぜなぞ科学 パズル横丁 解いてみよう

共通するキーワード 意外性 ロマン 夢 身近な謎 健康

読まれるための工夫

研究者のストーリーを取り上げ、研究者の思いを伝える

毎日新聞科学面 「理系白書」 「挑む 研究者の素顔」

ブルーバックス(講談社、1963年創刊)の例

これまでのベスト10

子どもにウケる科学手品77
(98年、75万冊)
ブラック・ホール (75、63万)
相対性理論の世界 (66、62万)
四次元の世界 (69、56万)
パズル・物理入門 (68、35万)
量子力学の世界 (67、34万)
計画の科学 (65、32万)
電気に強くなる (69、31万)
マックスウェルの悪魔 (70、30万)
タイムマシンの話 (71、29万)

最近の10万部超え

記憶力を強くする
化学・意表を突かれる身近な疑問
「分かりやすい説明」の技術
「分かりやすい表現」の技術
大人のための算数練習帳

* 長くロングセラーだった物理が不振 * 90年代に生命科学が伸長

* 化学も最近、人気 * パズル形式、雑学ものが人気

* 中高生の読者は壊滅的 ビジネスマンが主体 大学生は買っているという印象



(4) なぜ科学技術理解の増進が必要か

- 科学技術創造立国を担う研究者・技術者の育成(A)
- 「科学は純粋に面白い」ことを多くの人知らないのはもったいないから(B)
- 科学技術が生活の隅々に入ってきた時代に、人類が賢く生きるための知恵として(C)
- 日本の政治、経済、社会のシステムを創造性や活力あるものに変えていくため(D)



(5) 「理系白書」(02年1月～)を通じて見る日本

- 文系優位の社会 「昔から科学は苦手」と自慢する人がいる
- 組織 = 論理的・科学的な思考より、人付き合いを優先 戦略に欠ける
- 研究者、技術者の成果に頼ってきた
- 実は、金融業などの企業活動の基本として、理系センス(科学的思考・判断、技術を見る目)がひじょうに大切 政治家も
- 理系センスは、文理問わず、全員が身につけるべき
- 科学リテラシー = 科学技術の個々の知識よりも、さまざまな事象を科学的に捉えて判断する力が大切では



(6) 理解増進のための仕掛け

素地はある

(A) 子どもの進路として理系は人気。手に職

朝日新聞の「かがくる」が好評

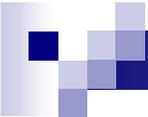
毎日中学生新聞は科学ニュース強化

(子どもにとって得だと母親に感じてもらう)

(B) 女性は健康記事、健康番組に関心 この好奇心を

科学全般に広げる手立てを考える

(C) テレビの教養クイズ番組でも、理科の問題は人気



考えられる手法

- (A) 「暮らしの理科」をテーマに身近な問題から始める
パズル形式、クイズ形式の大人向け「教科書」を作る
懸賞応募も検討 結果としてそれなりの体系が示される

- (B) 科学理解増進キャンペーンに、より国民の目に見える形で取り組む
例 今年6月の環境省による地球温暖化防止キャンペーン 新聞などの事業局とタイアップし、さまざまなイベント それを紙面などで大きく紹介

- (C) 縦割りを排して、キャンペーンのコーディネータシステムを作り、各部門の予算を有効活用する



(7) 提案

疑似科学(Pseudoscience)に取り組むプロジェクト
血液型性格判定 えせ健康食品 マイナスイオン 心霊写真
超能力・・・ 若い人はこういう事象に強い関心 無批判に信じている

どこが正しくて、どこが間違っているか 科学者が本気で取り組み、替わりうる考え方を示す

小学校の理科教育の充実

科学理解増進で一番重要なのは学校での理科教育の充実
そのための小学校教員の育成が急務

高校の文理分け教育や教員養成課程の入試、授業の見直し